

# 園だより 11月

あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。

地はお造りになったものに満ちている。

詩編 104 篇 24 節

暑いくらいの秋晴れの中、今年度も「みんなあつまれうんどうかい」を園児たち、未就園児や小学生、応援して下さったおうちの方々やご来賓の方々と共に楽しく過ごせましたこと本当に嬉しく感謝申し上げます。

二学期が始まり、園生活のリズムも戻ってきた9月半ば過ぎ頃から10月にかけての日々。気候的にも過ごし易くなってきた頃、年少中組ではお話の世界を楽しみながらその世界を体も動かし楽しそうに表現する、そんなときが展開されていました。それが運動会に繋がっていったのですが、運動会だから、表現活動のために、ではなく子どもたちが楽しんで過ごす日常の心もちが運動会へと繋がりその日々を楽しむ、今年度もその様なときの流れを大切に過ごされました。年長組では、これまで幼稚園で経験をした「運動会」を今年はどのような名前でどのような種目で楽しむか、の話し合いから始まりました。自分の考えを仲間に伝えることや仲間の考えに耳を傾けお互いに理解し合うことなどのときが大切過ぎた今年度の種目が決まりました。子どもたちならではの楽しい種目であったと思います。そしてその活動を通して自分の力に向き合うこと、チームの力と想いをつなぐことなど心の育みもなされました。各学年それぞれに育まれるこのときならではの様々な成長のときでありました。

「運動会」と聞くと「今は競争させないですよ」「世の中は競争だから多少は競争させてメンタル鍛えたほうがいいんじゃないですか」などのお言葉をいただくことがあります。どうなのでしょう。子どもたちと共に過ごして明確なことは、子どもたちはそれぞれに競争心を持っているということです。ただ、それを子どもたち自身が意識する時期はやはりそれぞれです。年少さんは先生のところまで思い切り走る子、自分のペースで到着する子、どの子も満足顔でした。年中さんは競争心いっぱいゴールする子、自分の精一杯の力を感じながらゴールする子、個々に感情を表していました。年長さんは今自分が何に力を注ぐときなのかが分かっていました。自分の持っている力に向き合い挑戦する、仲間の力をお互いに感じ合いながら競い合う、子どもたちは個々にしっかりとそのときの心に向き合い精一杯の力を出し、喜びや悔しさを感じていました。幼児期の成長過程には個々の成長が大きく関わります。そのため幼稚園では子どもたちそれぞれの成長のときを大切に日々一人ひとりと向き合い過ごします。競争に対する心もちも共に喜び、ときに共に悔しがりながら過ごすことで育まれていきます。さまざまなお考えがあると思いますが、競争心というその心が意識される前の一律の時期に、外からあおられるように意識させられ勝つことがよしとされ、負けた自分を否定することにつながったとしたら、その心はどうなるのでしょうか。それよりも、精一杯の姿に声援を送られ満足し自分の力を感じていたら、これからの様々なことと向き合うときも、幼児期に根付いた潜在的に自分を信じる力で乗り越えていくのではないのでしょうか。外から与えられた耐える力より、自らを信じる内なる力のほうがどれほどに強いことかと思います。無条の愛を感じ安心して過ごすことでその育みはなされます。

11月はクリスマスを迎える心静かなときを過して参ります。神様の愛（これこそが無条件の愛）によって私たちに贈られたイエス様のお誕生を待ち望む嬉しいときとなります。保護者の皆様もそのときをご一緒にお過ごしいただけますことお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子